

3月27日 いじめを考える学習交流会

「いじめ」シンポに400人 参加者からも多くの意見

3月27日に西区役所講堂で日本共産党名古屋市議団主催の「『いじめ』のない学校と社会をめざして」のシンポジウムが、教育評論家の尾木直樹氏（尾木ママ）や、岩城正光副市長らを招いて行われました。

約400人の市民が集まり、満席の会場は熱気に包まれました。

いじめのない学校をめざして

青木ともこ議員が司会をつとめ、主催者あいさつに、たった田口一登市議団長は、相生小学校の6年生がつくった「6年1組学級歌」を紹介し「歌詞は、6年生みんなで話し合っただけです。こういうクラスだったら、『いじめ』を止めることができるのではないかと思います」とあいさつしました。



相生小学校の6年1組学級歌

「友達100人つくろうと ワクワクドキドキ入学式 1年生は1、2、3 たった23人 忘れないよ 君の言葉『友達になろう』 絶交 けんか 殴り合い 口をきかないこともあったさ 『ごめんね』君の言葉 うれしかったよ けんかがあっても 何があっても 問答無用の一クラス でも君がいてよかったよ」

主催者あいさつを行う田口団長（上）と相生小学校の学級歌（右）

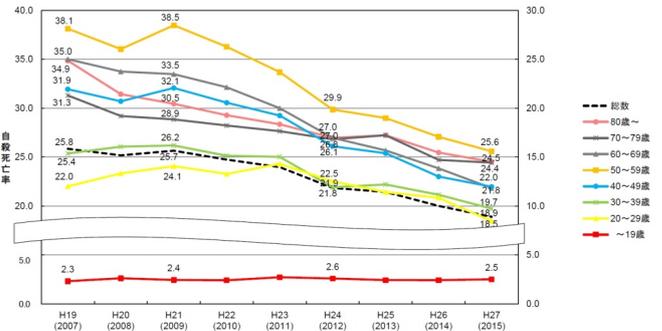
深刻な問題解決に光明がさす

「尾木ママ」こと尾木直樹先生のユーモアを交えた講演には、参加者もぐいぐい引き込まれ、愛知県では昨年12月から3人もなくなっている実態にもふれられ、ステージ上を所狭しと動き回りながら各地での取り組みなども紹介をされていました。教育現場の管理の伝統と閉鎖的体質ではないかといわれていることも紹介され、「いじめ」という深刻な問題の解決に大きな光明がさす話だった、などの感想も寄せられています。

後半のシンポジウムでは、岩城副市長をはじめパネラーの方の話をうけ、会場からも次々と手が上がり、学校に行き開始前から会場前で並ぶ参加者の皆さん。



会場いっぱいの市民の前で歩きながら講演する尾木直樹さん

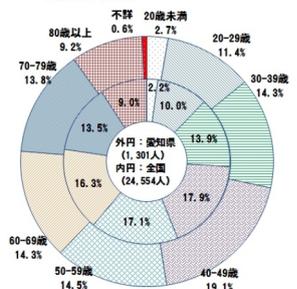


けない子どもの保護者からの切実な訴えなど、がありました。

学校の対応を批判するだけではいじめはなくなる、どんな対応をしていくのかは様々な方向から考えなくてはならないなどの意見も寄せられています。

このシンポの内容は、なんらかの形で、参加されなかったみなさんにもお伝えしたいと思います。

年齢別自殺者 (2015年、警察庁自殺統計より)



第二部の進行をつとめる岡田議員（左）と報告する岩城副市長（右）



3人のパネラーの発言を受け、フロアからの発言も次々と。